

令和5年第2回 JCHO 船橋中央病院地域協議会議事録

日 時 令和6年3月28日(木) 15:00~16:00

場 所 本館2階看護研修室

進 行 郷地 英二(副院長)

出席者 【外部委員】

高橋 日出男	船橋市健康福祉局健康部 部長
中村 順哉	船橋医師会 理事
丸山 尚嗣	船橋市立医療センター 院長
倉部 佐和子	利用者代表

【船橋中央病院委員】

山口 武人	院長
郷地 英二	副院長
深澤 元晴	副院長
山北 真一郎	事務部長
開保津 貴子	看護部長

合計9(Web参加2名)人

observer

鈴木師長(R5年度地域連携室師長)・田中(房)師長(R6年度地域連携室師長)

佐藤課長(経理課)・矢作課長(医事課)

欠席者 大塚副院長、

中山総務課長補佐(書記)

1. 開 会 外部委員及び病院委員の紹介(名簿順)
2. 院長挨拶 開催の挨拶
3. 資料説明 別添資料により令和5年度の患者数、収支等の状況・紹介受診重点医療機関・新型コロナウイルス受入れ状況について山北事務部長より説明

4. 意見交換①

丸山委員 収益が減少している状況の中で、外来患者数を伸ばしていくためには、今後どのような対策をお考えでしょうか。

山口院長 ベテラン非常勤医師1名と～(録画不能)

以上の機能を発揮していただけるように患者数を増やすために令和6年度は頑張っていきたい。

鈴木師長 今後、中村先生や地域の先生方にはメール導入の案内をさせて頂きたい。患者数を

紹介しやすいような環境を整え、患者から直接 QR コードで予約可能なシステムの導入を考えている。院内では、地域連携枠を増やすことを進め、当院の受診しやすい環境を整えていきたいと考えます。

別添資料により新病院移転について山北事務部長より説明

意見交換②

高橋委員 「お礼」

市民の命と健康を守るため、地域医療を築いて頂きありがとうございます。また中核病院として貴院の役割は大きく、救急・第2種感染症指定病院の運営をはじめ、周産期母子医療センターにおいては、県内で最も多くの母体搬送を引き受けて頂いていることに感謝申し上げます。

「新病院の建設にあたりお願い」

現在地より大変近い距離での移転を大変うれしく思います。基本設計前のグラウンドデザイン作成の上では、ぜひ小児病棟の開設をお願いしたい。なぜならば、現在の船橋市及び周辺地域における小児病床は不足しております。また現在の小児人口の2025年における7万5千人は、20年後でも7万2千人の小児人口を維持する将来人口が示されているところです。直近の20年では、市内の小児病床を有する病院が、4病院から2病院となりました。この2病院は、船橋医療センターと船橋二和病院となりますが、両病院の病床数を合算すると46床となります。その結果、人口当たりの小児病床数は、全国の50万人以上の市において、最も病床数の少ない市となります。また、近隣の習志野市と鎌ヶ谷市には、小児病床を有する病院がありません。よって新病院建設の上では、周産期センターの継続しつつ小児病棟の再開を望みます。ぜひ地域貢献になりうると思っていますので、ご検討の程宜しく申し上げます。

山口院長 20年前は小児病棟を維持していたが、現在は医療センターと二和病院に担ってもらっている状況です。新病院建設にあたり当院でも貢献したい気持ちがあり、小児病床を有しての経営を本部と折衝を重ねたが、構想はなかなか難しいと言う意見のため、現時点では新病院での構想はございません。現実的には、小児病床を有する際に2つのハードルが有り、経営面と小児科医師の定数を確保できるか、という二点です。今後は時間の制約もありますので、明確なプランを立て経営的にどれぐらいの規模で、どのような機能を持てば、新病院の機能として入込めるか、具体的に検討して、JCHO本部と折衝し、新病院のデザインとして入れていければと思います。ただ時間がありませんので、早急に着手しなければいけないと思っております。高橋部長がおっしゃったように船橋市の小児医療の入院については、脆弱であり貧弱なところもあるため、我々も地域医療に貢献すると言いつつそう言うところが抜けていることは心苦しい。

5. 閉会